

旧海岸線の道

富岡は、その名の由来が「十三丘」からきていると言われるほど、小高い丘が連なっています。かつては、東は海に面し、美しい海岸線が続いていました。維新後、多くの文化人がこの景色に魅せられて別荘を設けています。また、しばしば訪れていたヘボン博士によって、我が国初の海水浴が勧められた場所でもあります。昭和40年代後半から始まった金沢地先埋め立て事業で、海岸の様相は一変しました。

旧川合玉堂別邸（二松庵）

日本画家の川合玉堂が大正6年（1917）頃に設けた別荘・画室で、邸内に大きな松が2本あったことから「二松庵」と名付けられました。玉堂は夏と冬をこの別荘で過ごし、富岡の風景や人々の暮らしを描いています。なお主屋と表門は平成7年横浜市の指定文化財となりました。

富岡八幡宮

祭神は、八幡大神・蛭子尊・天照皇大神。
建久2年（1191）源頼朝が鎌倉の鬼門（北東）封じとして、摂津国西宮の蛭子尊（ヒコミコト）を勧請したのが始まりとされています。安貞元年（1227）に八幡大神を併せて祀り、社名も八幡宮と改めました。応長元年（1311）の大津波の時に、八幡宮の山が、富岡の村を護ったと言い伝えられ、「波除八幡」として知られ、信仰を集めました。深川富岡八幡宮は、ここから分霊されました。平成14年に社殿の大幅な改修が行われ、本殿（桃山時代の建築）は、往時の姿に修復され、覆殿が設けられました。金澤七福神では、蛭子（ヒコ）尊を祀っています。



祇園舟神事

富岡ゆかりの人々

・福沢桃介・房・駒吉

桃介は、埼玉県川越市の出身で、旧姓を岩崎といいました。慶応義塾に入塾したのをきっかけに、福沢諭吉に認められて次女・房と結婚し、福沢家の婿養子になりました。幾多の事業を手掛け、明治41年（1908）頃から電気事業に関係するようになり、電力王と称されるようになりました。房との間にできた長男が駒吉です。

・井上馨

長州藩士。政治家。維新後、外務大臣、農商務大臣、内務大臣、大蔵大臣など数々の要職を歴任しました。伊藤博文が仮寓していた屋敷の隣の土地を借りて造られた別荘が、海辺にありました。その後、この別荘は富岡楼という旅館・料亭となり、昭和10年（1935）頃まで賑わったようです。

・伊藤博文

長州藩士。政治家。初代、第5代、第7代、第10代内閣総理大臣を務めています。明治憲法の起草にも関わっています。夏島・野島に別荘がありました。

・大島圭介

播州赤穂の医師の子。岡山藩の開谷学校で漢学を、大坂の適塾で蘭学と西洋医学を学びました。幕末には榎本武揚らと蝦夷地に渡り、五稜郭で降伏して投獄されました。後に許されて新政府に出仕するようになり、技術官僚として産業の近代化に貢献しました。工部大学学校校長、第3代学習院院長兼華族女学校校長となり、教育関係の役職を歴任しました。後に外交官に転じ、駐清国特命全権公使や朝鮮駐在公使などを務めました。

・松方正義

薩摩藩士。政治家、財政家。内務大臣、大蔵大臣を歴任し、日本銀行を設立しました。第4代、第6代内閣総理大臣に就任しています。

・三条実美

公家。政治家。最後の太政大臣。尊皇攘夷の公家として明治維新に深く関与しました。実美の別荘地付近は、クツモ海岸と呼ばれた所です。実美が制作させた『富岡海荘図巻』には、往時の美しい海岸線が描かれています。

慶珊寺

花翁山。真言宗御室派。本尊は、大日如来。寛永元年（1624）、富岡の領主であった豊島明重が父母の菩提を弔うために建立したものです。裏山の墓地には「豊島明重父子供養塔」があります。明重は、寛永5年（1628）、江戸城内で最初の刃傷事件を起こし、その場で自刃しました。その後、子の吉継も切腹を命じられ、豊島家は断絶となりました。ヘボン博士が滞在時に掲示した「門札」があります。門前の右隣には、岸信介元首相揮毫の「孫文上陸記念碑」が建てられています。

直木三十五文学碑

直木三十五は、大正末から昭和にかけて活躍した大衆作家です。碑には「芸術は短く、貧乏は長し」と刻まれています。昭和35年（1960）、横浜クラブが建てたものです。

直木三十五は、気候温和、風光明媚な富岡を愛して昭和8年（1933）の暮れに居を構えました。

「直木賞」は、大衆文学における彼の功績を記念して親交のあった菊池寛により、昭和10年（1935）に創設されました。

長昌寺

富岡山。臨済宗建長寺派。本尊は釈迦如来。小田原北条氏の家来柳下豊後守が天正2年（1574）に亡き妻の菩提を弔うために建立したと伝えられています。本堂裏手には、かつて富岡総合公園内にあった芋観音が祀られています。その奥には直木三十五と彼を慕った胡桃沢耕史の墓があります。2月に南国忌、3月に芋観音ご開帳があります。

金澤七福神では、布袋尊を祀っています。